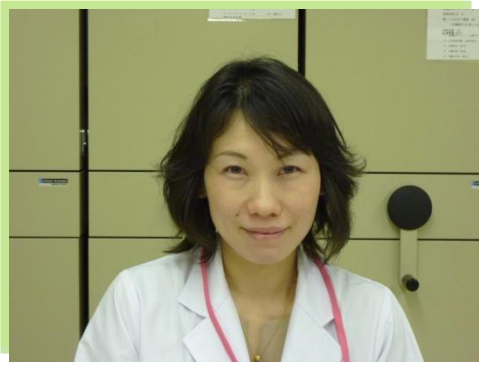


号外 “長崎の女性外科医” 特集！！ 今回は、2名の素敵な先生方にお話を伺いました！



長崎労災病院 外科

くろは
久芳 さやか先生

キャリア：今日は、女性外科医特集ということで、長崎労災病院の久芳さやか先生にお話を伺いたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。まず簡単に自己紹介をお願い致します。

久芳先生：現在9年目で、研修医1年目を長崎大学病院、2年目を北九州市立八幡病院で研修しました。3年目から長崎県島原病院、国立佐賀病院、NTT病院をそれぞれ1年ずつ回り、6年目（平成18年4月）に大学院に入学し、現在は大学院の4年生になります。大学院在籍中に二人出産しました。社会人大学院生なので、去年の12月から長崎労災病院に勤務をしています。

キャリア：社会人大学院生ということは、もしかして、夜は長崎大学に通われているんですか？

久芳先生：いえいえ。現在は論文の投稿中で、リサーチは終了したので、もう大学には通ってはいません。フルタイムで労災病院に勤務しています。

キャリア：そうですね。佐世保⇄長崎間を毎日通うとなると大変ですもんね。

久芳先生：そうですね～。

キャリア：早速ですが、以前に比べると、女性の外科医数は増えてきているようですが、他の科と比べるとまだまだ女性の割合は少ないのが現状だと思います。久芳先生は、なぜ外科を目指そうと思われたのですか？

久芳先生：すごくありきたりなことですが、身内に癌を患った人がいて、癌治療に携わりたいという意識が強くなりました。内科でも癌の治療はしますが、ケモ（化学療法）も含め、やっぱり癌は外科の治療かなあ～と思って、外科を目指しました。

キャリア：そうなんですね。では、外科を目指そうと決めるうえで、躊躇されるようなことはなかったですか？

久芳先生：なかったですね。その時は結婚とかも何も考えていなかったんで（笑）

キャリア：先生は、長崎大学病院の第二外科に入局されていますが、大学を選ばれた理由は何ですか？

久芳先生：その当時は、ほとんどの人が大学に入局してました。大学でも外科だけでなく、他の科もローテートでき、私も内科・麻酔科・放射線科を回れたので大学入局でいいかな～と思って決めました。

キャリア：では、実際に外科に入局してみて、女性に特化した問題等は何か感じられますか？

久芳先生：女性だから大変ということは特にないですが、母親だから大変ということはあります。結婚する前は、男性と同様に時間を使え、仕事だけに全力を注ぎましたが、今は子供の送迎・その後食事を作って食べさせてなどすべきことが山積みなので、仕事が中途半端になってしまう……。これが辛いです。自分の寝る時間を削れば良いだけなのですが、子供を寝かしつけるとき一緒に寝ちゃって（笑）

キャリア：女性でいい点は、今乳癌の勉強をしているのですが、患者さんからは女性の先生で良かったとか、話しやすいとよく言ってもらえます。

キャリア：同じ女性として、その患者さんの気持ちは、よくわかります。

久芳先生：手術とかになると腹をくくって、男女問わず腕がいい先生にと思われようですが、ファーストタッチでは、女性医師がいいという方はまだまだいるのかな～と思いますね。

キャリア：ところで、お子さんが二人いらっしゃるということですが、おいくつですか？

久芳先生：一人目が3歳で、二人目が去年の5月に産まれて9か月になります。

キャリア：えっ！？まだ産まれたばかりですね。じゃあ、保育所に預けているんですよね？院内に保育所があるんですか？

久芳先生：病院内にはないので、今は民間の保育所を利用しています。でも、今年の4月から院内に保育所を作っていただけるという話です。幸いなことに、家と病院の間に病児保育をやっている病院があるので、朝から熱があったらそこに預けることができるのですが、途中で呼び出しがあった場合、一度病院を離れないといけなくなるので、仕事を中断しなければいけません。

キャリア：他にも何かありますか？

久芳先生：労災病院では、私はもともとの外科の定員十一人という形で雇っていただいています。実質増員なので、時間外や当直といった義務を免除してもらっているんですね。だから、医師としてはめずらしく時間を‘区切れて’いるので、すごく助かっています。でも、これがもし、時間外・当直もしましよ～ということであれば、多分仕事を続けるのは無理だと思います。夫は整形外科医なのですが、労災病院の整形外科は非常に忙しく、帰宅はいつも22時頃ですので、夫の援助はなかなか得られなくて……。

キャリア：そうですね……

久芳先生：もし、そういう状況になってしまったら、家政婦さんを雇って子どものお迎えや食事の支度等もしてもらわないといけな～かな～とまでは考えているんですけどね。

キャリア：久芳先生は、産休や育休は取られたんですか？

久芳先生：一旦退職したので取っていません。出産後は、ちょうど大学院に在学中だったので、仕事という形ではなく、大学院生で復帰しました。リサーチなので、お給料はありませんが、自分の時間を自由に使えるので、子どもが熱を出した際等は、自分の研究が一旦止められそうだったら、止めて迎えに行くことができました。時間が自由に使えるという点で、よかったです。

キャリア：大学院にいたことで、復帰もスムーズにできたという感じですか？

久芳先生：そうですね。第2子の時は、子どもが6か月の時からこちらの労災病院に復帰したんですけど、第1子で随分慣れたのでそんなに大変だとは思っていません。

キャリア：では、女性医師が子育てをしながら仕事を続けるために、病院や医局からどのようなサポートが必要だと思いますか？

久芳先生：やっぱり勤務時間の短縮、時間外の免除ですね。現在、その配慮を受けられているのは、部長をはじめ、今のスタッフの方全員がすごく理解を示してくれているからだと思います。例えば、17時になったら手術中でも帰っていいよと代わりの先生を呼んでくださったり、時間外や土日免除して下さる等の心遣いをしてくださったり。また、時間外勤務をしない私を、正規の職員として雇ってくださっている病院にも感謝ですね。こんな恵まれた職場で仕事をするのは、なかなかないと思うんですが、こういった勤務先がもっとあればいいと思います。また、非常に大事なものは医局のサポートです。派遣先の病院に外科の定員の1人として送り込まれると、その病院の先生方もそう配慮はできないと思うんですね。当直スタッフが減るし、急患対応が減るし。だから、子供が小さい間だけでも、医局の方で定員プラスαみたいな形で派遣を考えてもらえてすごく助かります。あと、子育てってひとりじゃ絶対無理なので、パートナーの協力が不可欠ですね。私の場合は同じ病院で勤務していますが、派遣先は同じ病院でなくても近くの病院にしてもらえる等の配慮をしてもらえるとありがたいと思います。単身赴任だとちょっと無理ですよ～自分への戒めもこめてですが、子育て中はサポートがあって当たり前！って考えは駄目ですよ。周囲に感謝を忘れてはいけな～と。また、自分が充分働けるようになったら今度は後輩を助けるようにしたいです。

キャリア：ちなみに、労災病院の外科には久芳先生の他に女性の先生もいらっしゃるんですか？

久芳先生：今はいないんですが、4月から入ってこられる予定です。楽しくなりそうです。

キャリア：では、最後に外科を目指そうかなあと考えている女子医学生・研修医の方にメッセージをお願いします。

久芳先生：はい。外科だから大変ということは考えなくていいと思います。外科に絶対入ってとは言わないけど、女性だからって外科を躊躇する必要はないのかなあと思います。手術とか面白いし、興味があるのなら女性でも全然大丈夫ですよ！

キャリア：現段階で、先生の目標はありますか？

久芳先生：そうですね。患者さんからも同僚の医師からも信頼されるような医師になりたいと思っています。最後にひとこと。医師を結婚・出産後も続けていく上で最も大事なことは、パートナー選びもしくはパートナーの洗脳です（笑）！仕事を続ける事に理解を示してくれて、子育てにも協力してくれる人を見つけてください。子育てに手がかかる時間は本当に短いと思います。子供が巣立った後の人生の方がずっと長い！折角医師になったのですから仕事を続けて充実した人生を送りましょう♪



長崎大学病院
腫瘍外科
さとう あやこ
佐藤 綾子先生

キャリア：今日は、女性医師特集ということで、腫瘍外科で活躍中の修練医 佐藤綾子先生にお越しいただきました。どうぞよろしくおねがいします。

佐藤先生：よろしくをお願いします。

キャリア：では、まず簡単に自己紹介をお願いします。

佐藤先生：長崎市出身で、長崎南高校を卒業した後、福岡大学に進学しました。初期研修は、健康保険諫早総合病院で2年間研修し、平成21年4月に第一外科へ入局しました。

キャリア：ありがとうございます。では、早速ですが、佐藤先生はなぜ外科に進まれようと思ったのですか？

佐藤先生：外科に入局しようと思ったのは、研修医2年目の外科研修の時です。学生の頃から手術室の実習が好きで、何かしら手術に携わるような仕事をしたいと考えていました。外科は敷居が高そうとも思っていますが、研修をしてみて、自分は腫瘍の患者さんを診たい！やっぱり手術は楽しい！と再認識し、外科を選ばないで後悔するよりは、まず入ってみようと思い、外科を選びました。

キャリア：なるほど！健保諫早総合病院を初期研修先に選んだのはなぜですか？

佐藤先生：病床数が300床規模の病院で、スタッフの人数も研修医の人数も、自分が研修するにはバランスがちょうどいいと思い選びました。自分が研修する科以外の先生にも覚えていただけて、相談したい症例はその科の先生の所まで出向いて、気軽に相談できましたし、教えていただけました。そういったところが、市中病院の利点だと思います。

キャリア：では、初期研修を終えて、後期研修を長崎大学に決めたポイントって何かありますか？

佐藤先生：外科入局を決めて、健保諫早総合病院の外科の先生に入局したい旨を報告した際に、3年目は大学病院で過ごすことを勧められたことが、決め手ですね。

キャリア：そうなんですね～。実際外科に入局してみているいかがですか？

佐藤先生：まだ余裕もなく、仕事に追われている感じではありますが、充実して

いると思います。先生方も働きやすい職場を作ってくださっているので、すごく感謝しています。

キャリア：楽しそうですね。女性に特化した大変さがありますか？女性として外科で働いていくために、何か大切なことがあったら教えてください。

佐藤先生：そうですね。意外に、女性だから大変とは思わないんです。女性だからこそ生かせることって結構あって、例えば、女性の患者さんが男性の医師に言いにくいことでも気軽に相談してもらえたり、病棟で働くにしても病棟にいるスタッフ全員が気持ちよく働ける環境や雰囲気を作れたらいいなと思って・・・そういうことを、心がけています。

キャリア：確かに同性の人の方が、相談しやすいことってありますよね。女性がいるとホッとします。話は変わりますが、第一外科のホームページを見たところ、佐藤先生はカフェに行くことが趣味って書いてありましたが、お休みはちゃんと取れてるんですか？

佐藤先生：取れてますよ～。当直も結構ありますが、当直がない休日は朝からは病院にでて仕事をし、その後に、家族とカフェに行ったり何らかの息抜きをしています。カフェに行くことなどは、平日にはできない休日だけの楽しみなので。

キャリア：息抜きは大事ですよ～！

佐藤先生：はい、大切ですよ～！

キャリア：リフレッシュ休暇とかは取れるんですか？

佐藤先生：それは順番で取っているのですが、夏休みにまとまったお休みをいただきました。

キャリア：それはいいですね。公私共に充実した生活を送られているようですが、現段階で、2～3年後のキャリアをどう考えていらっしゃいますか？

佐藤先生：第一外科の入局後の流れとして、入局後1年間は大学で、その後何年間かは関連病院での勤務になりますので、その頃は関連病院で勤務している時期だと思います。この数年は自分が目指す範囲だけではなく、多くの症例を経験したいと思っています。

キャリア：では、最後に外科を目指そうかなあ？と迷っている女子医学生・研修医のみなさんにメッセージをお願いします。

佐藤先生：実際に働いてみて思うことは、「外科は大変」とか、「女性には難しい職場だ」と考えられることもあるんですが、実際働いてみたら、やりがいがありますし、とても楽しい毎日です。例えば将来いざ結婚・出産ということを考えても、医局の先生方が何らかの調整をしてくださると思います。なので、興味があったら外科も考えてみて下さい。外科ではなくても、興味がある分野を見つけたら、是非挑戦されてください！

【長崎大学病院では、病院全体で、女性医師をサポートしています！】

- ・ 2009年に病後時保育も含めた保育園の開設
- ・ 産休、育児休暇の取得促進
- ・ 時短労働の導入
- ・ 女性専用当直室設置
- ・ 女性の教官の増員
- ・ 育児介護ワーキンググループによる啓蒙活動
- ・ 各医局における女性医師の労働環境の改善
- ・ 長崎県と協力した復帰支援&キャリア支援

女性医師・医学生の皆さん、不安があればご相談ください！



長崎大学病院 医師育成キャリア支援室

長崎市坂本1丁目7番1号

TEL : 095-819-7847

FAX : 095-819-7882

MAIL : career@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL : <http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/career/>

BLOG : <http://careerngs.exblog.jp/>